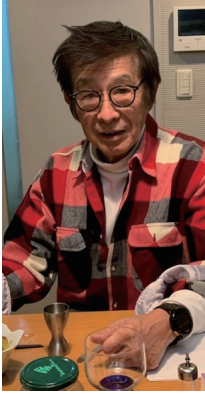


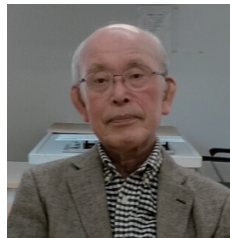


# 私たちのワクワク・ビト

## 新・荻窪はっけん伝 第2章



### すぎなみ大人塾荻窪コース 2021



# ーすぎなみ大人塾荻窪コース2021ー

## 私たちのワクワク・ビト



学びの案内人 高橋明子  
(株)エンパブリック

### 「新・荻窪はっけん伝」を描こう

～荻窪を聴き歩き・知らなかったことを深めよう～

2021年度の荻窪コースでは、私たちの「ワクワク・ビト」の“聴き描き”(\*)を行いました。それぞれが自分自身の「ワクワク・ビト」を訪ね、お話をうかがい、まとめたものがこの冊子です。

(\*)聞き書きの手法を援用しています。

### 話し手を「ワクワク・ビト」と名付けたのは、 荻窪コースオリジナル!

受講生の皆さん、お一人おひとりのワクワク・ビト。その“聴き描き”が集まれば、今まで知らなかった、新しい荻窪が見えてくる!みんなの「新・荻窪はっけん伝」が描けるはず!そんなコンセプトのもと、活動を重ねてきました。

第1回の講座で「ワクワク・ビト」なんて思いつかない!というお声を多数いただきつつ、”ご家族をはじめ身近な方の中からぜひ”と第2回は企画づくり。たくさんの「ワクワク・ビト」を提案いただきました。第3回は荻サポの皆さんの「ワクワク・ビト」の聴き描きを、みなで街に出て一緒に体験しました。

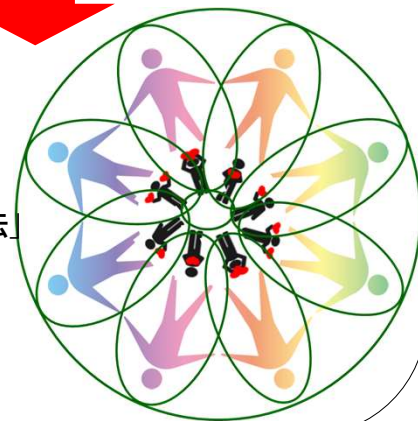
### 「ワクワク・ビト」とは



- 知り合いではあるけれど、もっとお話を聞いてみたい人
- 以前からどうしても気になっていたアノ方
- ご家族でも、もちろんOK!



皆さんの「ワクワク・ビト」が集まって、「新・荻窪はっけん伝」が完成!



第3回・実践の巻

その後、荻サポのフォローのもと、受講生の皆さんに“聴き描き”を進めていただきました。アポ取りもインタビューもまとめも、皆さんがどんどん進めて下さって、ワクワクはどんどん高まっていきました。

こうして、すぎなみ大人塾荻窪コース2021から生まれたのが、本冊子、**「私たちのワクワク・ビト — 新・荻窪はっけん伝第2章」**です。

話し手である「ワクワク・ビト」の皆さんの活動や生き様の迫力、聞き手である受講生の皆さんのお話の引き出し方、そしてまとめ方！荻窪に、こんなにたくさん「ワクワク・ビト」がいっちゃる！！

新たな発見の詰まった冊子となっています。ぜひじっくりとお読みいただけたら幸いです。

すぎなみ大人塾 荻窪コース2021

日程	内容 ※時間全て 13:30 ~ 16:30
① 8/21(土)	「オリエンテーション・聴き歩きテーマ探しの巻」 ▶自己紹介 / 聴き歩きテーマ探しワークショップ
② 9/18(土)	「聴き歩き・企画づくりの巻」 ▶どんなテーマで聴き歩きするかを決める ▷ゲストトーク：朝倉紘治さん（郷土史愛好家）
③ 10/16(土)	「聴き歩き・実践の巻」 ▶チーム別に聴き歩きの実践活動
④ 12/4(土)	「“はっけん伝”まとめの巻」 ▶聴き歩きをはっけん伝にまとめる ▷ゲストトーク：永石礼子さん 木の芽のいえ（荻窪のコミュニティスペース）代表 永石尚也さん 同上 メンバー
⑤ 1/29(土)	「“はっけん伝”発表の巻」 ▶仲間と発表しあいます

残念ながら昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍の影響は避けられず、スケジュールが変更になったり、なかなか交流の時間が取れなかったりと制約もたくさんありました。

その中で、一緒に活動して下さった受講生の皆さん、講座を主催した杉並区立社会教育センターのスタッフの皆様、また講座を創り上げて下さった荻窪サポーターズの皆さん。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

荻窪地域の今後の動きにも、ご期待下さい！



荻窪サポーターズ(荻サポ)の皆さんと

# 目次

タイトル	ワクワク・ビト	聞き手	ページ
■きっかけは子育て中の地域参加 時を経て多世代型集いの場へ ～いつも真ん中はオープンリビング～	樋口 蓉子さん	猪狩 明美	1
■街に生き続く通りのシンボル	横田 友子さん、松田 健さん Charles Jackson さん	井上 泰代	4
■荻窪出身の大田純穂の考えるふるさと	大田 純穂さん	井上 陽二郎	9
■今が一番幸せ	鈴木 壽美さん	伊藤 佳江	11
■小さな自治会だからこそ	恵羅 博さん	岡 志津	13
■子ども食堂で広がるネットワーク	東海林 明さん	香取 真実	15
■井草の植木屋さん	志村 健治さん	岡田 敏夫	17
■「読み聞かせ」で皆を笑顔に	小高 久美子さん	齋藤 雅一	18
■人は誰もが生涯成長し続けます	岸 達也さん	千坂 正志	21
■荻窪南口駅前を見つめ続けて70年	兼田 護さん	西村 淳一	23
■ラジオ体操歴35年	大瀧 進一郎さん	河合 淳子	25
■杉並からレスリングのメダリスト	成國 晶子さん	日向野 亜紀子	26
■住みやすい・わが町“荻窪”	杉原 幸一郎さん	川越 敬之	31
■神様に気づくこと、 人とお付き合いすること	小俣 文弘さん	町田 恵子	32
■現代を生きる私達の心の灯	名曲喫茶ミニヨンのママさん	まきた	35
■日本の文化と地域の豊かさを 知ること、伝えること	本城 智子さん	松本 勝正	37
■地域の活性化への活動を続ける 元気な女将さん —荻窪日の出街で30年—	平井 晴代さん	加藤 俊也	39
■地域に支えられて 「今日も楽しく明るく元気！」	今村 富美枝さん	染谷 貞夫	41
■桃井第二小学校から流れる弦楽の調べ —人生を豊かに生きる、 その土台づくりを音楽で—	星 千鶴子さん	高橋 明子	43
■私が草木染をする理由	横山 ひろこさん	原田 佐和子	47
■荻窪家族レジデンスとともに	瑠璃川 正子さん	檜枝 光太郎	48
■緑の多い荻窪 屋敷林を守りたい	武井 成浩さん	渡邊 麗	49

※ワクワク・ビトの肩書はインタビュー時のものです



## きっかけは子育て中の地域参加 時を経て多世代型集いの場へ ～いつも真ん中はオープンリビング～

ワクワク・ビト (話し手) : <sup>ひぐちようこ</sup>樋口蓉子 さん

オープンリビング けやきの見える家

聞き手 : 猪狩明美

### ■ 樋口さんの活動履歴

#### 生活クラブ時代→生活者ネットワーク

子育て中に地域との接点を持ちたかったので、生活クラブ(生協)の活動に参加して、理事になり運営にも関わるようになりました。生活クラブの活動は、食の共同購入を通して「生活を自治する」活動であり、その延長には政治も自分たち生活する者が参加して作り上げていこう、身近な地方議会に自分たちの「代理人」として人を送ろうという、市民の政治ネットワークである「生活者ネットワーク」の活動がありました。市民の「代理人」として区議会議員に立候補し、当選。3期12年(1991年～2003年)活動しました。

生活者ネットワークでは、3期(12年)ローテーションというルールがあります。議員を職業化しない、長くやることの弊害もあり、市民感覚で区政に関わるためにはむしろ議員はいろいろな人が経験するべきで、また、議員経験をその後の地域活動に活かすことも必要です。

#### 地域へ

議員生活の後、議員経験を活かしながら住み慣れた地域で安心して暮らせるように、誰もが暮らしやすい杉並のまちをみんなで力を出し合っつけていこうと、「NPO法人 おでかけサービス杉並」を仲間と一緒に立ち上げました。その後目的達成のために必要を感じたところで事業・活動の

幅を拡げて、現在は5つの部門を構成しています。

#### ① 移動サービス (2005年～)

杉並区では他地域に比べて早い時期から移動サービス(高齢者や障がい者の外出をサポート)の歴史がありました。そこで団塊世代の地域還流の場として、リタイア後の男性にドライバーになってもらい、移動サービスの事業を始めました。

#### ② 杉並ゆうゆう館の業務受託 (2006年～)

いつまでも元気に、地域で暮らすための杉並区のゆうゆう桃井館と善福寺館の業務受託、協働事業を行なっています。

#### ③ NEKO(ネコ)の手サポート (2013年～)

日常生活のちょっとした困りごとをお手伝い! おでかけサービス杉並の利用会員を対象としたサービスです。

ちなみにNEKOは、

N…なんでも

E…えんりょなく

K…こまったときの

O…おてつだい

です。

#### ④ オープンリビングけやきの見える家 (2014年～)

住み慣れた西荻のまちでいつまでも安心して暮

らし続けたいと願う人のために、多世代が集い交流する場を、自宅を開放して開設しました。ケア24 善福寺（地域包括支援センター）の協力のもとに運営し、保健師や福祉スタッフに日常の困っていることの相談もできます。高齢者、子育て中の方、子どもたち、どんな方も歓迎します。

毎週木曜日 13:30～16:30、参加費は200円（お茶とお菓子付）、企画のある日は500円。

#### ⑤ 杉並区外出支援相談センターもーびる（杉並区委託事業 2015年～ 前身は杉並区移動サービス情報センター 2007年～）

「さあ、まちに出よう！」

高齢や障がいにより、お一人での外出が困難な方の日常生活や社会参加を支えるための「外出に関する相談窓口」です。外出に関する相談や情報提供、「外出手段にお困りの方へのお出かけガイド」の発行、必要なサービスへの案内などを行います。ご本人だけでなく家族・ケアマネージャー等支援者の皆さんからの相談にもお答えします。

#### ■ 「オープンリビングけやきの見える家」について詳しく教えてください

##### ① 何故名称に「オープンリビング」を付け加えたのですか？

ここに自宅を建てるにあたって、設計士さんをお願いしたのは「日当たりの良い、明るく広いリビングが欲しい」ということだけでした。家の中心にあるのはリビングだと思ったし、それも誰にでもオープンにでき集えるスペースにしたかったので。生活クラブの活動で何かあると相談は我が家のリビングに仲間が集まってだったので、オープンリビングということは自然な流れでした。

よく、「台所に他人が入ってきたら嫌じゃない？」とか、「トイレを知らない人に貸すのは抵抗がありませんか？」とか、訊かれるのですが、私はそういうことはあまり気にならない方です。だから、「オ

ープンリビング」は「オープンキッチン」でもあり、「オープントイレ」でもあります。以前からみんなでクッキー焼いたら一緒に食べるとか、食を考える集まりをしていたこともあると思います。

##### ② 何故「オープンリビングけやきの見える家」を始めようと思ったのですか？

「地域の居場所づくり」として高齢者ばかりでなく多世代の人々が気楽に集える場を作りたいと思ったので。身体が不自由な方にも利用しやすいようにスロープや手すりを区の助成金を頂いて設置しました。

また当時の流れとして「住み開き」とか、気負いが無い自然流の生活が見直されるようになったこともあります。

「オープンリビングけやきの見える家」開設にあたって事前にこれまでの活動から知り合った地域の人たちにも声かけをしてボランティアスタッフを募りました。スタッフ養成講座を開き、傾聴、認知症サポーター講座、車椅子介助などの学習を終了した人たちが活動しています。このような活動を求めている人、近所で何かちょっとした手助けをしたいと思っている人がたくさんいるということを確認しました。

##### ③ 開始や運営にあたってのご苦労や、よかった点は？

特に苦労をしたと思っていません。ただ、このコロナ禍は、毎週木曜日に定期的に開催していたことができなくなって、辛かったです。今回は久しぶりに開催できてホッとしています。コロナの様子を見ながら、以前のように回数を増やし、定期的に行いたいです。

##### ④ 今後「けやきの見える家」はどのようにしたい、なって欲しいですか？

最初に申しあげましたように、大体が走りながら考えるとところがありまして、今現在もそんな感

じではあるのですが、ただここへきて、自分の年齢のこともあり、如何に法人全体の活動を次の方たちに渡していくかを、考えています。きっと皆でやっていくとは思いますが、無責任な形で引いていくのはまずいと思って。なんか良い形で、こんな引き渡しもあるのだなど、思ってもらえるような形を残したい、とは思っています。でも全部引こうと思っている訳ではなく、けやきの活動は最後まで残るでしょうが。さて、どうなりますか。

⑤ 場所を作るにはまずコンセプトがあって、それに基づいて建物を作り、集まりの場にしていくと思っていましたが、そのことについてどう思われますか？

私の場合、子育ての中から「生活を自治している」と活動が始まったわけで、その時その時で問題の内容や解決も違っていたので、最初から確としたコンセプトがあった訳ではありませんでした。先ほど申した通り、家の設計の目的は「日当たりの良い、明るく広いリビングが欲しい」ということだけでした。むしろそのようなざっくりとしたことで、縛りがなかったことが良かったと思っています。

(2021. 10. 21. けやきの見える家にて)

<あとがき>

西荻「オープンリビング けやきの見える家」に、荻サポの檜枝さんと一緒に樋口蓉子さんのお話を伺いに行きました。

西荻の閑静な住宅街の遙か遠くに大きなけやきの木が見え、それを目標にして樋口さんのお宅を目指しました。お宅を訪ねる前、坂の上のけやき公園のけやきの大木が2、3本固まってあたかも一

本の木ようになっている（株立ち）のを見学してから、通りの向かい側の「オープンリビング けやきの見える家」にお邪魔しました。

おじゃましたのが木曜日でしたので、ちょうど集いの日で、リビングにはご高齢の方やスタッフの方が、「勝手知ったる他人の家」的に自発的に準備し、集まっていました。

で、話の詳細はレポートにしましたが、樋口さんの行動力には目を見張りました。それも気負ったところがなく、「問題解決をしなげたらこうなった」という、すごく柔軟で、素早い行動力に驚きました。

私は自宅で何か活動をする時は「まず、コンセプトありき」と思っていたので、樋口さんの「この家を建てた時、明るく広いリビングが欲しいわ、と設計士さんをお願いしたけれど、それ以外はお任せでした」には、ひどく驚きました。私の発想と真逆だったから。以前から何かあると相談するのは我が家のリビングに仲間が集まってだったから、「けやきの見える家」で個人宅を開放することも自然の流れだったとのこと。

いろいろご苦勞おありかと思いきや、「どうにかなっちゃいました」とお笑いになる。私自身あるNPO立ち上げの時理事で参加し、NPOの運営がいかに大変かは分かりますので、小柄な樋口さんの柔らかさの内側の「ぶれない心」に驚きました。生活者ネットワークの区議会議員を務められその後NPO活動。その流れの中に「けやきの見える家」もあるという、自然体の樋口さんはとても魅力的な人生の先輩です！貴重なお話をお聞きできて幸せでした。檜枝さんにご紹介、ご案内頂き、素晴らしいワクワク・ビトに出会えたことに感謝します。



## 小さな自治会だからこそ

ワクワク・ビト（話し手）：<sup>えらひろし</sup> 惠羅博 さん  
松溪自治会会長

聞き手：岡 志津

### <まえがき>

大人塾で身近で話を聞いてみたい人「ワクワク・ビト」にインタビューしてみよう、という課題が出た時、真っ先に思い浮かんだのが二軒隣にお住まいの自治会長、惠羅さんでした。自治会って何だろう？好きな場所はどこだろう？私は荻窪に越してきて6年になりますが、これまで挨拶程度でほとんどお話したことがなかったご近所さん。ワクワク・ドキドキしながら惠羅さんのお宅に伺いました。

### ■ 自治会長になったきっかけ

私が荻窪に住み始めたのは大学4年生の頃。両親と同居していましたので、練馬から荻窪に実家が引っ越したのと同時に私の荻窪生活が始まりました。それから結婚し、息子と娘が生まれ、今では二人とも巣立ちましたが、これまで50年程ここに住んでいます。そろそろ仕事も定年…という時、八百屋をやっていた前会長さんが次期会長をやらないかと声をかけてくれました。よくある話ですが、若い頃は仕事一筋で自治会に顔を出すことは無かったんです。長い間住んでいるのに地域のことを知らないと感じ、お引き受けしたのが始まりです。

### ■ とても小さな松溪自治会

私が会長をやっている松溪自治会はとても小さな自治会です。隣の自治会は2,000世帯もあるのに対し、松溪自治会は100世帯ほど。パワーは無

いけど、小規模なので話は早いし小回りが効きます。みなさん何かあればすぐ集まってくれるし、楽しいですよ。

自治会の仕事は、回覧板で地域の情報を住民たちに共有することだけでなく、掲示板へのポスター掲出や防災訓練と防災に係る情報共有、ラジオ体操など様々です。数年前に空き巣に入られたお宅があったことから、週に2回の防犯パトロールも始めました。妻も一緒に地域を歩いて回っています。

### ■ 地域のことをやるということ

自治会長をやっていると色んなことを頼まれるんです（笑）。今は震災救援所の連絡会会長もやっています。東京都とか杉並区などの行政は、関東大震災のような災害を割とリアルに想定しています。有事の際にすべて行政だけではできないから、住民たちで助け合わないといけない。そのお手伝いです。

本当は定年になったら半年くらい別荘にでも籠ろうかな、と思っていたんですけど、それどころじゃなく忙しくなっちゃいました。それでも、何か役割があるということは良いですね。地域の仕組みもだんだんと分かってきました。

自治会のことをやっていると、自然と人とのつながりが出来てきます。そのつながりから、学校運営協議会の委員をやらせてもらったり、地域区民センターのボランティアも始めました。私はこれまで大学の先生でしたが、専門分野が数学なの



で、沢山の人と関わりながら何かをすることがありませんでした。地域のことは全然違いますね。一人の力で何かできるわけでもない、そんな風を感じています。

## ■ お気に入りの場所は

私が越してきた50年前から既に住宅街だったんですが、公園が増えてきましたね。松溪橋公園が出来てからあの辺りの雰囲気が良くなりました。ラジオ体操をやらせてもらっていますが、小さな子供たちはみんなあの小さな滑り台が大好きです。

私は松溪橋から見る景色が好きですね。夕日も見えるし春は桜が最高。カワセミがジャンプして獲物をとるところも見れるんです。

さらに昔はもっと自然がありました。善福寺川の岸には葦が生えていて、周りの田んぼと繋がっているような風景で、まさに松溪といった感じ。うちの家の前の道も昔はどうやら川だったみたいです。ほら、川のように曲がりくねっているでしょ。

## ■ 今後のこと

今後の自治会の展望なんて言うと大げさですが、お互い見知っていることが大事ですよ。「あの家におばあさんがいる」と分かっていると大丈夫かな？とすぐ顔が浮かぶでしょ。狭くてこじんまりしているメリットを生かして、機転の利く体制で、みんなが知り合いになっている状態を目指したいですね。

もっと広い範囲を、と考えると私は引込み思案なので、何かお役に立てる場合は何でもやりたいと思います。自分勝手に好きなことやりたいという気持ちもありますが、人間は社会的な動物なので、何か社会と関わっていないとつまらないですね。

(2021. 11. 3. 惠羅さんのお宅にて)

## <あとがき>

惠羅さんは、イメージ通り優しく的確にお話くださいました。本文に書ききれませんでしたが、てっきり「最近の若い人は自治会に顔を出さなくて困ったもんだ」という話になるかと思いきや、「若い人は世界が広いんだから、自治会に興味を持たないのは当たり前だ」とお話されていたのも印象に残りました。「自分も若くて働いているころは自治会、地域どころではなかったから。年を取ってからの役割としてちょうど良い」と。もしかしたら、在宅勤務も増えているので、今後は若い人も少し地域とのかかわりが変わってくるかもしれない、なんて話もさせていただきました。

最後は奥様も一緒にご近所話で盛り上がりました。松溪橋からの景色の話、松溪橋公園の滑り台が子供たちに大人気な話、今の私の家がある場所に狸が住んでいた話…。

街の魅力は人でもあると言いますが、ご近所さんにインタビューして改めて「知り合う」ことは、一番身近な街の魅力発見方法なのかもしれません。身近で話を聞いてみたいワクワク・ビト、惠羅さん。ご協力に感謝いたします！



防犯パトロールの様子



## 子ども食堂で広がるネットワーク

ワクワク・ビト（話し手）：しょうじあきら東海林明さん

子ども食堂「おぎよん」 荻窪地域区民センター協議委員

聞き手：香取真実

### <まえがき>

東海林明さんと聞き手は、荻窪地域区民センター協議会地域交流部で、2021年4月からご一緒しております。東海林さんは元海運会社の船長さんですが、陸と海で勤務をされ、海外経験を通して、文化の違う国籍の方々と仕事をされてきました。

現在62歳の東海林さんは、72歳まで働いた水先人を61歳で退職されて地域活動にデビューされました。退職されてから、ご自宅で子ども食堂を始められるまで、そして、現在、未来について伺いました。

### ■ 地域活動に入って1年

現在62歳、地域活動に入って1年で、地縁も血縁もない荻窪に来たのも4年前くらいです。あと10年水先人として働いて、72歳でここに腰を落ち着けて、そこから地域とのつながりとかできるのかといったら、できないな。では、どうするの？というのモヤモヤとありました。そして、今、子ども食堂「おぎよん」になっているこの1階と地下はコンクリートの倉庫状態でした。

### ■ 寄付をやるより自分で行動

水先人としての仕事をするのは、家を空けることも多く、また時間が不規則で、体力的にも精神的にもある程度のプレッシャーやストレスがある中で、何をモチベーションにして仕事を続けようかと考えました。赤十字やあしながおじさん、福祉目的のNPOなどに寄付をして、それをモチベーションに仕事を続けようと思いました。NPOは活動報告をととても丁寧に出してくださるのだけれど、でもいまいちピンと来ない、自分自身ダイレクトでやった方が良いのではないかとも思いました。

### ■ 子ども食堂を始めたきっかけ

2020年の夏頃、「何かやろうかな？やれないかな？」

と、まずは区役所に電話をかけて、社会福祉協議会を紹介されました。社会福祉協議会の方とお話している中で、自分の住む荻窪4丁目辺りには子ども食堂のニーズなど無いと思っていたら、社会福祉協議会としては、杉並全体に子ども食堂が満遍なく出来る形を作りたい。今、荻窪駅の南側には子ども食堂がない。子ども食堂をやりたいけれど場所がないと探しているボランティア団体もあるので、ここにそういう拠点が出来ることには大いに意義がある！との話を聞いて、やる気になりました。

やれる場所があって求められているのだったら、やってもいいのかな、やっちゃってもいいのかな、みたいな感じです。その地域に貢献するとか、社会福祉やるとか、あんまり強い思い入れはなくて、それより、ネットワークの一つのファンクション、歯車の一枚、補完する部分でいいじゃないのかなという気持ちで子ども食堂を始めました。

### ■ 子ども食堂の現状

子ども食堂は杉並区に子ども食堂だけで27、8か所あります。今は予約制にしています。本来、着席数15人という想定だったのですが、今、コロナの感染拡大防止で一度に8人しか食べられない。それを2回転して、どうにかこうにか毎回20数人くらいです。お母さんとお子さんが多いですね。何度か来られたご家族ですが、お母さんが忙しい日に、小学生と中学生のお子さんだけで来られたというケースも出てきました。

とても嬉しいのは、一度来られた方では、2回目3回目の予約を入れてくださるご家族が多いことです。お子さんが「また行きたーい！」と言ってきて。ただ聞いてみると、「ここ良かったからあなたも行きなさいよ。」という横のつながりでいらっしゃる方少なく、今接している方々は、区や社会福祉協議会、他の子ども食堂の紹介などで来られた方が多いです。

## ■ 子ども食堂への思い

子ども食堂が起点になっていろんな広がりが出てくればいいなあ。子ども食堂としては、杉並全体で、日本全体でカバーできるもののひとつであればいいなというのがまずひとつあります。1回の子ども食堂で時間を過ごしていただけるのが20人ちょっとなので、何をどれだけ貢献できるなんて本当に知れているのです。

今は、第2第4金曜日に開催していますが、やってみると意外に2週間はあっという間に来てしまいます。妻もまだ週何日か働いているので、あまり増やせないのです。負担になっちゃうと辛くなるので。

南口商店街の自然食糧品店グループのスタッフさんが、以前お店の2階でやっていた子ども食堂を「おぎよん」を借りて再開したいという話の実現し、来年からは第4金曜日を担当してもらうことになりました。また、中野のお母さんグループが、第1、3木曜日を担当してくれることになりました。こういう感じで少しずつ増やしていき、今日ここ開いている！みたいな広げ方ができれば良いですね。

## ■ 子ども食堂を交流の場に

地下に広間があり、そこで子育て支援や、中高生の居場所などとして、今やっている場所がちょっと無くなっちゃった、やりたいのだけれど場所がない、という時に使ってもらえるよう、そういうところとお話もしています。

子ども食堂に来た子育て中の方と、これからお子さん作られる方が悩みを共有できる交流の場など、今後どういう発展の仕方をさせたいのかについては、地域にも福祉にも関わり始めたばかりで、まだ良くわかりません。地域のニーズや、やりたい人の気持ちをできる限り吸い上げて、形にさせていただくための場所になればよいのかなという将来系です。

食事の後は、お母さんとお子さんが地下に下りて行って、お母さん同士や子ども同士が話したり遊んだりしています。カードゲームとかボードゲーム、読み聞かせとかできればよいのかもしれない。

地下に絵をかいてくれた荻窪高校の美術部の子どもたちが、食事の後、地下でみんな車座になってカードゲームして楽しそうに笑って、ああいう形が理想的だなと思います。コロナの心配がなくなれば、リーダーを

高大生に小学生相手にやってよという形が作れば楽しいでしょうね。

## ■ 目の前が荻窪高校というご縁

コンクリートむき出しだった地下の壁に、美術の発表の場をコロナで無くしているという荻窪高校美術部を紹介いただき、絵を描いてもらうことになりました。夏休み後半の14日間、生徒たちが、大きく空に飛翔するダイナミックなクジラの絵を描き、素晴らしい壁画になりました。新聞などの取材でこのクジラはかなり有名になりましたね。

(2021.11.3. こども食堂「おぎよん」にて)

## <あとがき>

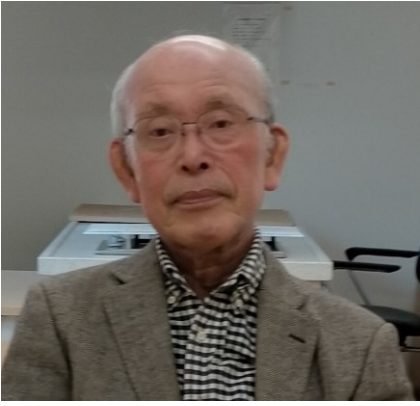
東海林さんへのインタビューを終えて、荻窪に住んで4年、退職されて1年で、これだけのネットワークを培われていて、話し手は前向きでアクティブな方だなと思いました。

東海林さんはチェコで、現地スタッフとの公私通しての経験後帰国されて奥様から「人が変わったわね」と言われたそうです。その時のご経験が、もしかしたら、地域との交流の機会につながっているのかもしれない。

聞き手も荻窪に住んで数年ですが、昨年の大人塾がきっかけで荻窪区民センター協議委員、角川短歌、日フィルバイオリン、写真サークルで地域デビューをすることができました。子ども相手の仕事も通して、これから、さらに、自分の得意な分野で、地域の皆さんと交流をしていきたいと思いました。



地下の荻窪高校美術部による壁画



## 人は誰もが生涯成長し続けます

きしたつや  
ワクワク・ビト (話し手) : 岸達也 さん

聞き手 : 千坂正志

### ■「会社人間」を卒業

65歳まで現役(三井物産等)で、フランスなど海外勤務が長かった。退職後は、日本語での意思疎通が困難な在留外国人に日本語を教える仕事をしたいと考えていたので、65歳になる1年前から、通信教育の日本語教師養成講座で勉強し、修了証書も頂いた。そして、フリーになって(2001年)、阿佐ヶ谷にある杉並区交流協会で、日本語教授方法の勉強会に参加し、外国人に日本語を教えるボランティア活動をしていた。

### ■「世界の医療団」に参加

半年ほど経過した時、「世界の医療団」(医療ボランティアを世界各国に派遣する国際協力NGO、フランスに本部)の代表から資金調達を手伝って欲しいと依頼された。商社マンとして途上国向けの仕事が多かったので、途上国の生活状況を見て、医療や教育の水準の向上が必要であると考えていたので引き受けることにした。企業や団体から寄付金を出してもらった仕組みの構築が、私に求められたものであった。5年間やったその仕事を辞める直前の日本法人の総会で、フランスから来日した代表の音頭で、スタンディングオベーションで感謝の気持ちを伝えてもらったことが忘れ難い。

### ■「ゆうゆう荻窪東館」を拠点に

「前向きに生きよう、学んでいこうとする現代のシニアを仲間として支援する集団」というNPO

法人シニア総合研究協会(RISA)の理念に共感し、発起人の一人となり、2006年の設立時に理事に就任した。RISAは、区から「ゆうゆう荻窪東館」の運営を受託し、そこを拠点に、サロン活動や地域活動をしている。会員が自ら講師となりサロンを主宰しており、元外交官が「ドイツの有名作品を原語で読むサロン」、元高校教師が「世界の歴史サロン」を開講するなどしている。(外部講師の場合も極力地元杉並区在住の講師をお願いしている。)地域活動としては、区からの依頼を受けて、認知症予防教室で読み聞かせや落語を通じての実践指導や、区内の保育園等での読み聞かせボランティア活動も行っている。大分前になるが杉並地域大学で数年にわたりNPO活動実践講座を実施したこともある。

### ■自分のサロンを開講

当初は「世界の医療団」の仕事もやっていたので、サロンを持たなかったが、RISA設立時のメンバーは、今までに得た知識や体験を地域に発信し、分かち合いたいという定年退職者の集まりだったので、会員はサロンを一つは持つことが原則だった。そこで、半年遅れて、私も「外国人向け日本語サロン」を開講し、5年間続いた。受講希望者の日本語のレベルがばらばらなのに、講師は私ひとりだったので、交流協会の知人に応援を頼りしたが、難しく苦勞した。東日本大震災を機に(受講生の多くが帰国)、このサロンは止めることにした。

## ■理事長になる

その1年前に理事長に就任し、5年間務めた。理事長は、区から受託しているゆうゆう館の管理運営に責任ある立場であり、ゆうゆう館の利用者に満足してもらう場を提供する責務を負っていたが、事務局スタッフがしっかりやってくれたので、大きな苦労はなかった。任期途中で、3年に一度の受託契約の更新のための審査を受けたが、区の理解を得て、無事通過できた。

現在は、「フランスの現代文学を原語で読むサロン」を主宰しているほか、絵画サロンなど5つほどのサロンに受講生として参加している。

講座ではなく、サロンという名前なのは、講師が一方的に知識を伝える場ではなく、参加者がテーマをめぐって、自由に議論する場でありたいという考えからである。偉い先生の話をお聴いて、さよならというのではなく、良い話を聞いて勉強になったと感じて帰るだけではなく、語り合う場（サロン）であって欲しいからである。

## ■RISAでの15年を振り返って

RISAに関わることで「①自分がこれまでやってきたことが生かされた、②ゆうゆう館に集まって来てくれる人の顔を見ると楽しいし、地域に貢献できた、③多くの人と知りあえ、つきあえた」のでとても満足感がある。それに、自分が成長できたと思ってしまう。社会貢献できたかどうかは、自分ではなく人様が判断することだが、自分自身が向上できたことは大きい。

自分の「フランス語」のサロンも11年続いており、多くの人に参加してくれたが、与えたものより、もらったものの方が多かった。例えば、この歳になったが、僕自身のフランス語のレベルが上がったと思う。教えることは学ぶことであった。

取り上げた本以外の仏語の本にも手が出るようになった。仏文学の専門家ではないので、参加者から教えてもらうことも多々あった。晩年になって仏語や仏文学の理解が深まったと感じるのは愉快だ。肉体と頭は衰えていくけど、10年やっている絵ももっと向上しようと思っている。

## ■「地域社会」に出会って

地方出身の私にとって現役時代の杉並区は自宅と荻窪駅を結ぶ片道10数分の通勤ルートがその全てであった。RISAでの活動は、そんな私を地域社会に結びつけ、今まで接点のなかった人々との繋がりをもたらしてくれた。点と線であった荻窪が、この活動により面となった。

(2021.10.28. ゆうゆう荻窪東館にて)

## <あとがき>

岸さんとは3年ほど前に出会い、それから月に一回位のペースでお会いしている。従って、その高い識見と温かく、思いやりのある人柄は、熟知しているつもりだったが、今回のインタビューで、退職後に歩まれて来た道と思いを聞き、岸さんへの尊敬の念が深まった。

二時間に亘ったお話を纏めるに当たって、岸さんの肉声、語り口を再現し、岸さんの魅力的な人柄を伝えたいと考えたが、力不足で、紙数の制約もあり、臨場感のない要約に終わってしまった。一生懸命語ってくれた岸さんに申し訳なく思っている。インタビューの個性やパーソナリティを引き出す書き方の難しさを実感した。

なお、お話を伺って、私が一番感じたこと、今後の人生の指針にしたいと思ったことを、表題にした。



## 杉並からレスリングのメダリスト

なりくにあきこ  
ワクワク・ビト（話し手）：成國晶子 さん

ゴールドキッズレスリング代表

聞き手：日向野亜紀子

### <はじめに>

成國さんは、私（聞き手）のママ友です。ご本人も、レスリングの元世界チャンピオン。そして2021年12月の全日本レスリング選手権大会で息子の大志くん（24歳）が男子フリースタイル70kg級で優勝されました。杉並・荻窪でゴールドキッズというレスリング教室・体操教室・学童を運営されています。さらに介護予防事業にも事業拡大予定とのこと。これまでの歩みと今後の展望についてお話をうかがいました。

### ■ 上荻の地でいつ学童保育、体操教室をスタートしたのか。なぜ始めようと思ったのか

2年前（2019年）の1月に会社を設立した。今まで22年くらいレスリングを教えてきて、子どもたちとたくさん、色んな関わりがありました。

荻窪体育館で教えていた体操教室を融合させた施設を、急に思い立って作りたいなと思いました。息子の大志が大学を卒業するタイミングだったのと、これから先何かを残していくために、ボランティアで収益がないところでやっていた「ゴールドキッズ」を、何かひとつの形にしようと思いました。今まで積み重ねてきたものを残すにも、“はこもの”があった方が良いかな、という感覚です。

ただ簡単に株式会社という運営方法は資金不足でできるはずもなく、杉並区の教育に熱心な方か

らの資金提供もあり株式会社ゴールドキッズの設立となりました。

1月に会社を作って、ゴールデンウィーク明け、6月にこのクラブが完成。その後、体操教室も稼働し始めた矢先のタイミングでコロナとなりました。活動はすべて休止というわけではなく学童クラブは営業を続け、体操教室・レスリングクラブもトレーニング中心で休むことなく続けることができました

### ■ 開始してから運営にあたっての苦勞 + 良かった点

そうですね。琴音（長女）が生後1か月から指導を始めて22年経ちました。たくさん子どもたちと接してきて、それこそ300人くらい携わってきた子どもたちが、今大人になって自分の子どもを連れて来たりしている。「あの子がパパになったのか」「ママになったのか」という感じが、すごく楽しい。あと、自分の年齢は上がっているけど、入ってくる子どもたちは、3歳、4歳からと、ずっと変わらない。22年間ずーっと同じことをし続けているから。それは、自分として誇れるものではある。かけがえのない財産になっています。

現在（2021年12月）は、体操で100人弱、レスリングで30人くらい。学童に10人と、全部で150人くらいが活動しています。

## ■ 印象的だったことやハプニングなど

### 「これ！」といった出来事

日向野さんの娘さん（音彩）たちもレスリングをしていました。その時代がゴールドキッズレスリングクラブの黄金期だったと思います。息子（大志）が小学校4年生の時はとても強かったし、人数も多かった。2020東京オリンピックで金メダルを取った乙黒拓斗、その兄の乙黒圭祐も一緒に練習していて、全国大会で13人優勝し今も破られることのない記録です。あの時が一番印象深いかな。今年コロナ禍で行われた小学生の全国大会で一番優勝者数が多かったのもゴールドキッズでした。現在の小中学生の選手が10年後のオリンピック目指して、乙黒拓斗みたいになる可能性が高い。それくらいのレベルの子がいるのは、やっぱり楽しみ。

## ■ これまでの歩みと今後の目標

これまで、すべてのカテゴリーで優勝者を出してきたと。幼児、小学生、中学生、高校生、大学生、全日本、世界選手権、オリンピックのチャンピオンをすべて、ゴールドキッズから出した。レスリング界では何の発表もないけれど、どこのチームも達成していないこと。世界選手権でも浜田千穂、乙黒拓斗のふたりが優勝している。男女ともに優勝者を出しているクラブはゴールドキッズだけ。あと、もう1つだけ達成したいのは、高校の団体優勝。インターハイの団体優勝だけがないんです。それを今の中学生で、3年後に達成したい。選手たちにも言い続けて、メンバーもそろっている。それを達成するために、あと3年頑張ろうかな！と思っている。それが一番の目標です。

## ■ 「やる気スイッチ」の作り方

琴音（長女、大学4年生）が大学の卒論に「指導について研究したい」って話が出てきて、私を材料にしようとしている。ちょっとそれはそれで面倒くさい。私は感覚でやっているから。それこ

そやる気スイッチって、子ども個々にみんな違って、やる気スイッチが入るタイミングを探すのが私の仕事。例えば、小学校2年生の時に、「この子、今ポンと押したらここからグッとあがるかも？」って。それを自分の中の感覚で判断している。それが2年生の時の子もいれば、5年生の時の子もいる。これを言葉でずっと伝えかける。「今、ここで頑張っていたら、来年勝てるから、今、頑張れ」って言う。試合で負けた後の声のかけ方とか、1つ1つのスイッチがあって、全員にスイッチを入れようとは思っていない。全員一斉にフーンとスイッチが入るわけじゃない。

例えば葵夏（元生徒）は早かったし、音彩（元生徒）はのんびりだったし、智子（元生徒）は智子で何かマイペースみたいな。個々にスイッチの入るところが違っていて、そのスイッチを入れるポイントを自分の中の感覚で押さえながら、全員に違う言葉をかけてきた。だから技も同じことをするのではなく、みんな違うことを教えていた。例えば葵夏がかけた技を、音彩には返す技を教える。音彩に教えた技を今度は智子がまたひっかき返す、といった教え方をしたのですよ（笑）。ゴールドキッズのレスリングを攻略しようとしても、【誰にもできないよ】と言うのは、そこ！皆、一緒に丸くなって、「はい、この技の練習」っていうことはしなかった。これが成國流の指導方法！（笑）

それを22年間やっている。それが一人一人に対する、スイッチの入れ方。子どもたちが今、20人練習に来ているとすると、全員に声のキャッチを毎回かける。今日どうなのか？学校の話とか聞いたり。お母さんみたいな感じで受けています。コーチとしては「こうした方が良いんじゃない？」「でもこうした方が良いよ」と、ずーっと伝える。トレーニングの否定はするけど。技については否定しない。

「そんなんじゃない強くない」とか「もっと自分でやりなさい」という風に考えさせながら、自

分でどうやって強くなるか考える導きをする。答えは出さないけど「それで大丈夫？」という聞き方をする。「今の練習をして、それで勝てるの？」と聴くと、首を横に振る。大体ね…「じゃあ、さらに自分で何をやったら良いか考えなよ！」って言うと、合間にトレーニングを入れたり、残ってちょっとトレーニングして帰るとか。「技わかんないんだけど、教えてください」と言って来るような、そのタイミングを作ってる。私から「～しなさい」は言わない。それがたぶんスイッチなんだよ。わかりやすい選択肢を与える。「それ大丈夫」って私の口ぐせで、よく琴音にも言う。「よく言われたわ～」って琴音も言った。「それで良いの？」その声かけがスイッチ。「いやだめだ」と思ったら、自分で何かやる。



ゴールドキッズの子ども達と

### ■ コーチの（仕事） やりがいは何か

学校の体育って、学習指導要領の中で、跳び箱をする、走る、バスケットをする、という風に、決められた中でしか動けない。それだと、子ども達に体を動かす楽しみはあまり伝わらないと思う。体を動かすことって本当に楽しいんだよということを、伝えていきたいということが1つ。

それと、もう1つ。日本ってサッカーやるんだったらサッカーだけ、野球をやったら野球、水泳だったら水泳っていうように、小さい時から同じ種目だけをずーっとやってる。身体を作る時間がない。「身体を作る」というのを、もっと親が認

識してほしい。身体を作ってから、次のスポーツに移行するべき。

サッカーしかしない、野球しかしないと壊れちゃうから。壊れるための身体を親が作っている。徹底してやらせてプロにしたいというのは親のエゴだっていうのをもうちょっとわかってほしい。

『子どもの運動神経が良くなるレスリング式トレーニング』ベースボール・マガジン社（2020年）っていう本も出して、その辺の認識をもうちょっと変えたい！って思っているんだけど、私の力くらいじゃあ無理（笑）。怪我をしないためにトレーニングをして、身体を作ることが必要なんだという認識が日本にはなさすぎ。トレーニングをオンライン化して、YouTubeで発信するのをこれからやっていきたいと思っている。

だからゴールドキッズレスリングクラブでは、レスリングの技術と同様にけがをしない身体作り方を目指している。この2年間、レスリングで怪我をした選手は一人もいない。

### ■ 今後、やってみたいこと

#### HALを使って介護予防の拠点に

これから介護予防、リハビリにも関わりたいと思っている。介護世界で初めて、革新技術のHAL（装着型サイボーグ）を、この地域のここに入れるんです。今からの時代のニーズに合わせていく。デイサービスまではいかないけど、数人のグループでHALをつけて、一緒にスクワットしたり、音楽をかけて踊ってみる、というクラスやる予定。ジムの奥のトレーニング室も全部改装して、パーソナルでトレーニングできる施設も準備しています。画期的な装着型サイボーグ・HALはいつまでも自分の足で歩きたいという願いを叶えてくれる。HALが身体を動かしてくれるので、今まで立てなかった人が立てるようになったり、脳梗塞で麻痺して3年間普通のリハビリに通っても全く動けなかった人が、1か月半で杖なしで歩行できるようになり手が動くようになった。生ま



れつきの脳性麻痺の人で、歩けるようになった人もいます。少しでも介護の手助けになりたい。地域の人々が気軽にジムに来てくれるような施設を目指す。



装着型サイボーグ・HAL

### ■ 地域へのご要望（もしあれば）

この辺に住んでいる子どもたちで、アスリートをめざしたい人がいれば、ぜひゴールドキッズに！また、体育、全くできないよ！という子も楽しく体を動かすことを覚えられるので、誰でも大丈夫。ぜひ身体を動かす楽しさをもっと知ってほしい。あとは、この地域に介護予防をどんどん浸透させていきたいですね。

### ■ 親子の関わり方

他のレスリングチームでは、練習に親がついて来て子どもは親の顔色を見て練習しているパターンが結構多い。

ゴールドキッズは、「はい、頑張ってきてね！」「成さんに任せるから」、という感覚。ゴールドキッズはのびのびとやらせてもらっている。子どもには子どもの世界があって、「自分で考えながらどうやったら強くなるか」「どうやったら伸びるかとか」私が声かけをしながら、自分で考えさせている。ぜひ親御さんは、子どもを枠の中にとらえず、とらわれず、箱の中に入れず、子どもがいろんな発想をもって、のびのび生きていられるような社会にしてあげてください。

### ■ 家族で経営。我が家の自慢・良い親子関

今、親子でゴールドキッズを経営している

2019年1月に株式会社ゴールドキッズを創業し

取締役役に就任した。長男の大志と一緒にスポーツクラブでレスリングや体操の指導にあたっている。代表取締役は長女の琴音で学童クラブを担当。

息子の大志と指導に関して合わなかったりする部分はあるけれど、お互いよくしようと思ってやっている。私がやってきたことを、大志は自分の色で変えたいといったことでぶつかることもある。24時間ずっと一緒なのでお互いぶつかっても、お互いミスをカバーできるし、思っていることもわかるし、言い合いにはならない。「こいつムカツク」って思っても、家に帰ったらそこは親子。すっかり忘れてしまう。そんな感じ。昔から、それは変わらない。小学生の時にも大志が「いい加減な練習して」とは思っても、家に帰ったらそれを持ち込まない。家でケンカすることは、ほぼない。一回ちょっと大きいのはあったけれど、お互いの言い分は解消してそれからは、さらっとしている。良い親子関係かなと。お互い尊重しているみたい。大志は「妹は慶応出ていて、勉強できるし、デザインとかやらせたら、彼女の方が全然できるのでは」と。琴音は琴音で「強くて頼れるお兄ちゃん」と、お互い尊敬していると思う。だから本音が言える。堂々と。

私が教えたことを、子どもたちがそのまま受け継いでくれるのは嬉しいんだけど、やはり経営として会社を大きくして行って、将来的にはフランチャイズのような形で何店舗か出したいなと思っている。大志も琴音も、しっかり勉強して、子どもたちに好かれるコーチになってほしいですね。

### ■ 「ゴールドキッズ」他にはない“ここ”ならではの魅力

大志はパリのオリンピックを目指している。12月に全日本レスリング選手権があって、ゴールドキッズ出身者の結果は、長谷川敏裕（FS57kg 級優勝）、石黒峻士（FS97kg 級優勝）、成國大志（FS70kg 級優勝）だった。そのほかにも、乙黒拓斗（2021年東京オリンピック FS65kg 級優勝）、乙

黒圭祐(2019年FS74kg級優勝)、石黒隼士(2020年FS86kg級優勝)や塩谷優(GR55kg級優勝)、菅沼碧久も入れると男子はすごい！日本レスリング協会は10階級しかないのに、FSは6階級ゴールドキッズだからね！（注：FS：フリースタイル、GR：グレコローマンスタイル）

昼間は介護の予防やって、夕方から体操教室をし、その後レスリングのクラス、その他に学童もやっています。もっともっとこれから繁栄していくと思う。ぜひ是非、荻窪にお住まいの方、寄ってください！



2021年12月 全日本レスリング選手権大会にてフリースタイル 70kg級優勝 成國大志



同大会にて フリースタイル97kg級優勝 石黒峻士と共に

### ■ すぎなみ大人塾荻窪コース メンバーへのメッセージ

ぜひ、この記事、外部に公表をしてください。まとめていただいたら、HPにも媒体にも出したいです。

(2021.11.18. 荻窪のゴールドキッズにて)

### <あとがき>

ママ友時代もすごいと思ったけど、今は、さらにパワーアップ。私のママ友だった頃は、本人も試合に出ていました。今は施設を作りたいと思い立ったら作り、学童も娘さんがやりたいからと始め、今までにないことをどんどん実行している！過去を振り返らず、いろいろな方と関りながら、マイナスをプラスにしてしまうくらいのパワーがあります。人に対するキャパシティも広く、何に対しても諦めない執着心もすごい人だと思います。



## 住みやすい・わが街“荻窪”

すぎはらこういちろう  
ワクワク・ビト（話し手）：杉原 幸一郎 さん

聞き手：川越敬之

### <まえがき>

杉原幸一郎さんは勤務先の先輩。昭和6年（1931年）、祖父の代に荻窪に住み、現在90年になります。

### ■ 祖父、父の思い出

祖父は陸軍の高等法務官（軍法会議での審理にあたる。法廷の裁判官に相当）で、昭和6年（1931年）に中野から荻窪に転居しました。荻窪は陸軍の関係者が多く住んでおり、陸軍の同僚からの情報もあり、荻窪に居を構えたようです。

祖父は私の生まれる前に早世してしまった為、直接的な思い出はありません。ただ、父から次のような話を聞いたことがあります。

昭和10年（1935年）8月相澤事件が勃発し、祖父が同事件の軍法会議の高等法務官として審理を担当しました。翌年2月には二・二六事件が起き、夜明け頃、反乱部隊が教育総監渡辺錠太郎私邸（光明院近く）を襲撃しましたが、徹夜で勉強していた父は、殺害の銃声を聞いていたとのことでした。翌日登庁した祖父は、反乱部隊が相澤事件の担当法務官を襲撃するとの情報があったため、父を連れて宵闇に乗り、雪中に残る足跡を消しつつ、阿佐ヶ谷にある祖父の学友宅に避難したこともあったそうです。

### ■ 戦時中のエピソード

私は昭和20年（1945年）1月生まれです。米軍が近くにあった中島飛行機の工場を空爆した後、残った弾を街中に撃ち込み、隣家の屋根瓦を貫通したことがあったらしいです。父は庭に4～5人は入れる防空壕を掘ったのですが、私は赤ん坊で防空壕に入ると泣き止まないため、自宅1階の部屋の座卓の下におかれ、上から布団を掛けてやり過ごしたと聞いています。

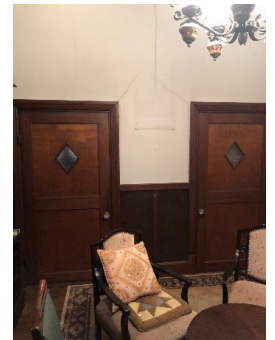
### ■ 小学校での気恥ずかしい思い出

私は文京区大塚の小学校に入学しましたが、父の転勤で小学校3年から6年の1学期まで北九州に住んでいました。その後荻窪に戻りました。

環八ができるまでの道路は泥道のため、雨の日には長靴で通学をしていました。学友は革靴で通学をしてきており、泥の付いた長靴でくる子供はおらず、気恥ずかしい思いをしたこともあります。

### ■ 自宅を大改装

結婚後、暫く荻窪を離れましたが、昭和64年（1989年）に自宅の躯体は90年前（昭和6年当時）のまま大改装し、その後現在まで住んでいます。右：90年前に作られた居間。



### ■ 居住地としての荻窪の良さ

荻窪は、①そこそこの広さの区画に住宅があり、落ち着いた環境が維持されている、②商店街がしっかり残っており、物販・飲食店も多い、③人付き合いは濃いわけではないが、地域としてまとまりがある。これらのことからとても暮らしやすい便利な街と思います。

最近近隣の家が代替わり等で分譲され、移り住んだ人たちとの交流が無くなるのが残念です。

### ■ 荻窪地域区民センター協議会の活動

私は地域との繋がりを求めて、今年の4月から荻窪地域区民センター協議会の委員になり、活動を始めました。社会人として経験豊かな委員の皆さんが、地域の為に真剣に活動をされており、大変貴重な体験をさせていただいております。

（2021. 11. 11. 杉原さんのお宅にて）



## 日本の文化と地域の豊かさを知ること、伝えること

ほんじょうさとこ  
ワクワク・ビト (話し手) : 本城 智子 さん

CreativeJourneyJapan 代表

聞き手 : 松本勝正

### <まえがき>

英語で日本の文化を紹介。英語で筋トレなど、日本の英語学習者の方に Instagram で、日本の自然、芸術、文化や歴史を発信！をなされています。

Instagram : creativejourney.japan

本城さんと出会ったのは、2020年8月から始まった、杉並区基本構想審議会に委員として出席した時からです。第1回審議会の折りに「(双子のお嬢様を) ロンドンで出産し、いつもロンドンと杉並区を比べて考えたりしているので、杉並の新しい基本構想づくりに対して、自分の経験や仕事を通して、多角的な視点で参加できれば」と自己紹介なされたことが強く印象に残っていました。

荻窪育ちで今も住まわれていること、海外に住まわれていること、両方の視点から、私のワクワク・ビトを尋ねました。

### ■ 子供の頃の 荻窪 から (40年前の荻窪)

小学校3年生のとき、京都から実家の荻窪に戻ってきた。西田小学校在学時には、1学年が45人の6クラスで全校約1,500人以上もいた都内でも有数のマンモス校だった。当時、松溪中学校は統一テストの成績が高く、杉並の学習院と呼ばれていた。

松溪中学校の北側は沼であり(70年前の地図では田んぼのマーク)、口裂け女が出てくると脅かされていて、今、歩いてみると、土嚢を置いている家など、地形に名残がある。また荻窪南口仲通り商店街のコープみらいの場所は、当時、廃墟のお化け屋敷となっており、週刊誌やワイドショーの取材がよく来て、その中で人が消える屋敷(2階奥の襖がある部屋)だと言われ、その屋敷を4人で探検したこともある。

荻窪の南側も、いっぱい空き地が残されており、雨の日には、放置されていた自動車の中に入って遊んで

いた。善福寺川の土手は土のままであり、段ボールで土手を下り、川の中で、よく遊んでいた。「ヒルだ〜と誰かが叫ぶと」と皆いっせいに川の中から出てきた。

### ■ ロンドンでの子育てから考える 杉並、荻窪

夫の仕事の関係で、ロンドンで双子のおんなの子を出産し、こどもが2歳の時に荻窪に戻ったあと、再度、10年間ロンドンで子育てをした。当時住んでいた行政区は、ロンドン市北部のバーネット・ロンドン自治区(London Borough of Barnet)で、現在、約40万人。地域社会が子供を育てようということが自然になされていて、ベビーカーを押していると、知らない人からも「まあ〜可愛い赤ちゃん、子育て大変だけれど頑張ってるね」と声をかけてくれたり、階段があると、カッコいいイケメンがすぐに手を貸してくれる。地域で子供を育てようとか、子供は国の宝であるという意識が高く、優しくサポートしてくれた。文化が異なった、色んな人種が住んでいるので、「人とコミュニケーションを取り、人とつながる」ことが、自分にとっても大切なこと、「利」があることを知っていると思った。

双子で大変ですと行政の窓口で相談すると、すぐに「ホームスタート」という有償ボランティアが来てくれ、その彼女には、地元行政(杉並区くらいの単位)から支援金が出ている。当時どうして行政からお金が出ているのかを行政の担当者に聞いたところ、子どもがダメになると、母親もダメになり、かえって税金をもっとかかるという考えだと言われた。ボランティアの彼女とは今でも仲良しで、前日(11月5日)もメールをしていたところ。

特に、小中学校が年に1、2回はテムズ川沿いにチャリティーウオークの“Because I am a girl campaign”に学校単位で生徒が参加し、例えば、マララさんの運動(困っている女性への支援)などへの募金を集める

活動（クラウドファンディングのオープンバージョンのようなもの）を行い、小さな単位でも、子供が考えて作って売るといったキャンティーン（canteen / カフェテリアのような場所）というボランティア活動には、月1回は参加していた。

杉並でも、学校や地域の単位で、役割を担うことができるし、チャリティーウォークで善福寺川を使ったり、地域で時間やお金に余裕がある人が、その持っているものを地域で回していくことを、荻窪に期待している。出来そうな、地域での子育て環境づくりやその時の学校や区役所の役割は、もっと色々な展開ができる。

### ■ 今の仕事とこれから

自分が外国で住み、文化の違いを実感したので、帰国後に、日本の魅力を外国人に伝える道を歩き始めた。2017年に「全国通訳案内士」を取得、すぐに約3年間、はとバスのガイドとして雇用された。「総合旅行業取扱管理者」も資格取得し、「CreativeJourneyJapan」という名称の旅行会社を荻窪で創業している。

新型コロナの影響があったが、観光庁の認定講師や認定ガイドに選んでもらったので、地域のインバウンド活性化のための相談やお手伝いをしていた。



鎌倉市内



松溪中学校 PTA 室にて

第3種旅行業登録をしているので、杉並区と隣接する地域において、『募集型企画旅行』を催行することができる。今、来春（2022年）に向けて、杉並地域を案内するツアーとして西荻アンティーク・ハンティングツアー、そして太田黒公園等の荻窪界限、善福寺川・井の頭恩賜公園の桜ツアーを企画している。

これからは、地元杉並地域と連携して、『募集型企画旅行』ツアーを発展させたいと考えている。より多くの外国人のお客様に、杉並区を知ってもらいたい。杉並は例えば、高円寺、阿佐ヶ谷、荻窪、西荻窪とそれぞれのカラーがあって、全く違った体験ができるという、文化的な観光要素の強みがある。リピーターのお客様にも、地域の特徴を活かしたディープ・ジャパン体験を伝えることができる。アニメーション文化もある。お茶屋さんや お寿司屋さんなど、色々な地域の方とも連携したい。さらに、文化に加えて、日本のアートを海外にご紹介することにも力をいれたい。併せて、動画での発信の打診があり、来春（2022年）から発信予定です。

（2021.11.6. 松溪中学校 PTA 室にて）

### <あとがき>

過日、私の所属する NPO 法人すぎなみ学びの楽園の理事会で本城さんの仕事の話を話し、角川庭園などで協働して新しい事業を展開したらどうかなど、提案したところでした。また、大田黒公園の責任者にもご紹介しました。

本城さんは、気さくで、着物姿も大変素敵なお方であり、とてもパワフルな方です。そのパワーの源は何か、あらためて伺ってみたいです。

※Journey 「旅」→日本語の「旅」に相当する表現としてよく用いられ、旅から得る教訓・成長・進歩など、プロセスを重視することを比喩的に表現する場合に使われる。



お店の前で

## 地域の活性化への活動を続ける元気な女将さん — 荻窪日の出街で 30 年 —

ワクワク・ビト (話し手) : <sup>ひらいはるよ</sup>平井晴代さん  
<sup>とりきん</sup>鴻金おかみ

聞き手 : 加藤俊也

### ■ 日の出街は、ずっと昔から飲み屋街

自分で通称、寅さんと名乗っている。主人は新宿生まれ、私は江戸川区の生まれ。最初は、昭和 59 年 (1984 年) に、主人が清水一丁目にお店を開き、その後、平成 5 年 (1993 年) に、現在の荻窪西口の日の出街に移ってきた。私は平成 8 年 (1996 年) に、嫁に来た。お店は、始まってから 37 年、日の出街では 28 年、焼き鳥・小料理の居酒屋をやっている。

インターネットの焼き鳥のお店紹介などで「おしどり夫婦の明るさに元気をもらえるお店」と紹介されているという話も聞くが、気っふの良さは下町育ち。ダンナとのなれそめなどは、また、お酒が入ってからの時に。

お店を出した頃から日の出街は飲食店、水商売のお店が多かったが、昔は、個人経営が、もっと多かった。その後、チェーン店が増えて、お店の近くに住んでいる経営者は少なくなってきた。高齢化で閉められるので、うちより古くて 30 年以上前のことを知っているお店は何軒かあるだけ。日の出街商店会のホームページには、「昭和 40 年 (1965 年) 頃から飲食店を中心として設立された」と書いてあるね。

### ■ 活性化のために、いろいろなことをやってきた

日の出街を活性化したいと思って、4 年前から商店会のことを、いろいろやってみた。

例えば、荻窪音楽祭と組んで、いろいろなお店の中で生演奏してもらったこともある。「うちのお



夜の日の出街

店でクラシックなんか」という声もあったが、演奏曲をポピュラーなものにしてもらったりして好評だった。

商店街の中の保育園の子どもへのプレゼントにサンタの顔のバルーンを 25 個も作って届けたり、商店街の中のツリーにつけて自由に持って行ってもらう

イベントもやって、このお店をクリスマスの午後から開けて、大人塾のバルーンチームや地域の人にも手伝ってもらって、みんなで作業をしたりもした。

商店会と別に、日の出キッズラウンドというキッズ会を作って、ヨーヨー釣りや、生ビール、たこ焼きなどの屋台を、みんなのお店の前を出して、夏祭りをやったこともある。お店の若いお父さん、お母さんが手伝って、小さい子供が、本当に大勢走り回って面白かった。

この店で、子ども食堂もやってみたいと思って、荻窪区民センターが、子ども食堂 (こみゆに亭) を

試しにやったときは、手伝いに行っただけ皿洗いをさせてもらった。

#### ■ 後を引き継ぐ若い人が、なかなか、出てこない

こうして、いろいろやってみてきたけれど、どうも、こうした活動を継いで、やってみよう、という若い人が出てこない。対話がないからかな。

うちのお店に飲みに来たお客さんに、他のお店を紹介して、「うちの紹介だから安くしてあげてね」と伝えるなど、お米の貸し借りを下町の感覚で付き合えるようにならないか、とやってみてきたが、なかなか、うまく行かない。

昔に比べると、日の出街への人出が少なくなっている。一つは、駅に近いこともあって、マンションへの建て替えがあること。うちの店の向いも、昔は飲食店だったのが、マンションに建て替わってしまった。お祭りをやったり、今日のように、コロナ対策もあり、時候も良いので、店の入り口を開けたまま営業していると、「うるさい」などの苦情が出るようになった。

一方、夜からの商売ということや、チェーン店化などで、教会通りなど他の商店街のように、二代目、三代目という人がいない。

特に、コロナで閉店するお店も多くあり、商店会の加入店も減った。商店会の総会も開けず、後任の会長も決まらない有様で、子どもの夏祭りや、クリスマスのバルーンも、もちろん中止。

#### ■ コロナが明けたら、もう一度。

そうはいつでも、ここでお店を開いているからには、防災などの基本的なことはやらないといけない、と思って、地域大学の地域防災コーディネータも受けに行き、朝の9時からはきつかったが、何とか修了した。

コロナで、今年に入って、ほとんど、お店が開けなかったが、やっとお酒の提供ができるようになって、10月4日から、お店を再開できた。

文豪やクラシック音楽という高級感だけの荻窪ではなく、日の出街のような文化も残すことが大事だと思うので、コロナが明けたら、また、いろいろなことをやっていきたい、と思っている。

地域でがんばる人をつくる活動だと聞いたので、今回の聞き書きも引き受けたんだよ。



お二人そろって

(2021.10.13. 荻窪日の出商店街・鴻金にて)



## 地域に支えられて「今日も楽しく明るく元気！」

いまむらふみえ  
ワクワク・ビト（話し手）：今村富美枝 さん

荻窪白山親和会会長

聞き手：染谷 貞夫

### ■ 下町から荻窪に嫁いで

私は幼少時ははにかみ屋で恥ずかしがり屋でした。（「私、生まれも育ちも中央区入船、鉄砲洲稲荷の神輿に肩を入れ・・・」という口上が似合いそうな気風の女性とお見受けしましたが）

昭和 35 年 19 歳で荻窪の春木家総本店（昭和 2 年創業～平成 16 年まで）2 代目に嫁入り。家族総出で若い衆（わかいし＝従業員）と子供を負ぶって働きました。夜泣きをしたときは、店の周りを負ぶってあやしているとおまわりさんに「どちらかお宿をお探しですか？」などと声をかけられたという思い出もあります。家は若い衆が住み込みで、舅・姑（姑一人鬼千匹という言葉があります）・小姑、義母の姉夫婦、義父の妹家族という中で、皆に教えられ現在の私があります。店は当時では珍しく月 1 日定休日がありました。主人は商店会青年部で二十日会という会を立ち上げ定休日を作ろうと活動をしました。

他にも出前先を千軒ほど持っていました。遠くは杓掛小学校まで出前をしていましたが、昭和 40 年に出前をスパッとやめ「中華レストラン春木家」として再出発する大改革を実施しました。そこから 2 代目として頑張りました。店の切り盛りはおかみさんで持つとつくづく思います。

### ■ 春木家物語

今日昔の写真をお持ちしたのですが、先代はとても発展的で、従業員に名入りの白衣を着せていました。生蕎麦屋が始まりですが、昭和 8 年の写真には「支那そば」とあります、またウナギも捌いたとも聞いています。長男だった先代はお店が繁盛したので、故郷の飯田から兄弟を呼び寄せ、それぞれが独立して天沼の春木家本店と青梅街道の春木屋の 3 軒となりました。この 3 軒は夫婦そろっての兄弟姉妹という大変珍しい家族です。巷では 3 軒の仲が悪いといううわさもあり

ますが、まったくそのようなことはありません。



創業 10 周年の横断幕（看板の下に薄く見えます）



若い衆と弥次さん喜多さん？そばを食す

### ■ 白山神社「女みこし」立ち上げ」に関わって



「区制 50 周年記念グラフ」（上の写真）という広報誌を持ってきました。白山神社はイザナミノミコトという女の神様を祀っていることから始まったのですが、実現までには先人たちが議論を重ね、昭和 54 年に始まりました、神社の神輿を女だけで担ぐのはここだけだと思います。担ぎ手は宮半纏を着た人だけとい



って地域の企業などの女性がたくさん参加しましたが、今は外国人や他地域の方の応援が必要です。今では荻窪の名物行事の一つになっていると思います。

## ■ 商店会の今昔

昔は青梅街道（陸橋から四面道まで）両側が一つの商店会でした。店舗数も多く公会堂で盆踊り大会をするなど活発な商店会活動をしていました。主人は長いこと商店会長をしていましたが、時代の流れを汲み、商店会としての活動基盤強化を目的に、昭和 62 年に振興組合と法人化しました。今はチェーン店の店舗も多く、なかなか商店会に入ってくれません。また、「花プロジェクト」という街路樹の下に花を植える活動などへの、協力手が少ないのが現状です。

商店街の活動を活性化させるのに若手の活躍が大切だと思います。



Ogibon (オギボン、左の写真) という雑誌を若手経営者が中心になって発行しています。創刊号をお届け頂いたとき、私は口が悪いので、おぎぼんの「ぼん」はボンボンのぼん？（ボンジュールのボンらしい）と申しましたが、このメンバーたちが活躍してくれることを期待しています。

## ■ 私の尊敬する先輩

私は商人ですので尊敬する商人の先輩女性がお二人います。レコードの新星堂の宮崎社長と東信水産の織茂社長です。宮崎社長はすごい語録があるんですが、一度会社がもらい火で火事になった時に、「今村さん大したことない、会社に 10 人しっかりした人がいれば全国動くわよ」と言って乗り切られた。女性でこのように言えるのはすごいと感心しました。また、いつも千円札一枚しか持たない。要は必要以上の買い物はしないということだと思うのですが、お二人の考え方や生きている姿が素晴らしくて見習いたいと思ってきました。

## ■ 地域活動について

地域活動にかかわるきっかけは、町会婦人部でのおむつ作りからです。さらしを筒状に縫う作業を手伝っ

たのが初めてだと思います。それを機に今に至るという感じです。地域活動へのアドバイスは難しいですが、リーダーの在り方は大切だと思います。独断専行ではなく、みんなの意見を聞いて議論を出し尽くして結論を出す、全員が関わって組織運営していくことが大切だと思っています。

私は「今日も、楽しく、明るく、元気」この 4 つの言葉をモットーにしています。同じ時間を使うのなら、いやいややるのではなく楽しくやる。参加すれば必ず得るものがあると思います。



受講生と一緒に。前列左側が今村富美枝さん。



インタビュー風景

(2021. 10. 16.)

荻窪北口大通り商店街振興組合事務所にて)

## <あとがき>

予てより、いろいろな場面で今村さんのご活躍される姿をお見掛けしていたのですが、この度インタビューしたい方としていの一にお顔が浮かびました。そしていつもお元気で、歯切れよくちゃきちゃきとした物腰は、下町のど真ん中のお生まれからきているのだと得心致しました。私も下町（下谷）生まれの端くれ、シンパシーを感じていたのだと思います。これからも何かとお世話になれば幸いです。



## 桃井第二小学校から流れる弦楽の調べ —人生を豊かに生きる、その土台づくりを音楽で—

ワクワク・ビト（話し手）：<sup>ほしちづこ</sup>星千鶴子 さん

杉並区立桃井第二小学校 早朝合唱・合奏クラブ創始者

聞き手：高橋明子

### <まえがき>

子どもが桃井第二小学校に入学して「弦楽クラブ」があると知り、さすが荻窪！と驚きました。ぜひ地域の皆さまにも活動を知っていただきたく、創始者の星先生にお話をうかがいました。

### ■ これまでの道を振り返るきっかけに

私は杉並区を中心に、音楽専科の教員として子供たちに音楽を教えてきました。今日は桃井第二小学校（桃二小）の早朝合唱合奏クラブのを中心にお話しします。平成15年、教員生活の最後に桃二小に赴任しまして、思い切って弦楽クラブを創設しました。今日、お話の機会をいただいて、自分のこれまでの道を振り返るきっかけにもなりました。

### ■ バイオリン弾きから音楽教員へ

私の経歴を含めてお話しますと、区立沓掛小学校、区立中瀬中学校を経て、都立駒場高校芸術科、武蔵野音楽大学に進み、バイオリンを専攻しました。大学3年、4年のときにはプロのオーケストラでもエキストラとして演奏もしていましたが、父が教員で、「教員ほどよいものはない。ぜひ教員になれ」と、小学校の教員になりました。

### ■ 小さいころから歌が大好き、合唱指導中心に

実家は妙正寺公園の近く、杉並区清水にあります。歌は幼稚園の頃から好きで、幼稚園の先生に「千鶴子ちゃん大きくなったらお歌の先生になるといいね」と言われていたと母から聞いています。

初任は江東区、その後西田小学校に11年おりました。私は合唱に興味があり、毎年子供たちと頑張ってNHKコンクールに出て、地区予選で銀賞までいきました。その後武蔵野市の桜堤小学校（当時）に赴任したとき、校長の勧めで「都の教員研究生」に応募、運よ

く受かって、1年間、調査研究のために自校に戻る以外は学校を離れ、東京芸術大学で学びました。「発達段階に応じた発声指導の工夫」という歌唱指導法に関するテーマで研究しながら、大学院の生徒さんたちと一緒に授業も受けました。

### ■ 吹奏楽にもチャレンジ

その後、沓掛小学校（母校）に赴任しました。前任者が吹奏楽のクラブをつくらうとしたときに、転勤となってしまったタイミングでした。吹奏楽の指導も一生に一度は指導してみたいと思っていただけ、金ピカの管楽器が40本くらい入ってきて、まあどうしましようという感じでしたよ。それでも管楽器研究会に入ったりしながら、吹奏楽と合唱を10年間、沓掛小で子供たちと楽しくやってきました。

### ■ 大好きな弦楽器で、人生の土台づくり

桃二小に来たのが、教員生活の最後でした。やっぱり自分は弦楽器がうんと好きで、子供たちに弦楽器を体験してもらい、その響きを味わわせたい。ちょうど荻窪は“クラシックの街”で、おうちに帰れば音楽にあふれている家もあるし、荻窪音楽祭になれば街のあちこちで演奏会をやっている。環境もとてもよいと思いました。

弦楽器の良さっていうのは、声楽もそうですけれど、一人でも弾くことを楽しめるし、二人でもデュエットができるし、4、5人ならグループ合奏ができるし、大勢なら合奏ができる。弦楽の響きを楽しんで、卒業生が、大人になっても、おじいさん、おばあさんになっても、生きがいにしてくれればいいかなと思います。

歌と楽器は、根本は“歌う”というところでつながっているんです。歌心を一番大事にしながら、桃二小でぜひ弦楽器を指導したいと考えました。

そしてもっと大きな目で見れば、元となる考えは、人

生をいかに豊かに生きるか、その土台をつくりたいということ。そういう姿勢でいろんなことをやってきましたし、弦楽器の指導も同じ目標を持っています。

### ■ 桃二小に弦楽クラブ創設（平成 15 年度）

こうして、教員生活の最後の赴任校、桃二小で、思い切って弦楽合奏をやりたいと切り出したわけです。子供たちと保護者の皆さんに「弦楽合奏をやりたいんですけれど、どうですか」と話しをしたら、「是非行ってください」ということ。職員会で先生方もどうぞと応援下さったので、スタートしました。

ところが、楽器が足りません。当時、桃二小には、バイオリンが3台、チェロが1台、コントラバスが1台ありましたが、入部希望の子どもは30人！インターネットで楽器バイオリンを10台、チェロを2台、私費を投じて買いましたが、それでも足りない。そこで曜日分けて、1台の楽器を二人で使って練習しました。

ところで私は沓掛小のときに松戸に引っ越して、通勤に片道一時間半かかるようになったんですね。しかも中央線は事故が多く、「間に合いません」と電話すると、校長先生が「いいよ気をつけていらっしゃい」と音楽室に行ってくださいって、子供たちの安全管理をしてくださる。児玉校長先生のときに弦楽クラブをつくったこと、本当にありがたかったですね。

### ■ 2年目（平成 16 年度）：様々な協力をいただいて

2年目に、「特色ある学校」という予算を要望したら、教育委員会がバイオリンを13台買ってくれました。いい楽器でしたね。それで少しは息をついたんですが、19年度にはクラブ全体が94名、そのうち74名の弦楽器志望があり、また楽器が足りない。そこで、台東区でオーケストラ活動をしている4校の先生に片っ端から電話をして楽器を貸してくれないかと頼みました。当然、全然ダメでした。ただ一人、武蔵野市の桜堤小に勤務していた時、同じ市内の学校で一緒に音楽部で活動していてよく存じ上げた音楽専科の先生がいらして、「5台、貸してあげる」って言ってくださったんですよ。電車で行った時は3台までしか1人で持てないので2回に分けて取りに行きました。子供たちに楽器を、という一心でしたね。

また子供たちの人数も多くなって、指導もどうしよ

うかと思っていた時に、バイオリンを習っている児童が自分の先生にクラブの話をしたところ、地域のプロの（志茂尚子）先生が、「お手伝いさせてください」と。こちらが何も言わないのにお申し出をいただいた。薫をもすがる想いでぜひ願いますとお答えしました。

そのほかにも、クラブ生のお母さんに、荻窪でバイオリンを教えている東大路桂子先生もいらっしゃいました。現在は指導者としてお力添えいただいておりますが、当時も行事の時、積極的にお手伝いくださいました。周囲の方に恵まれて、よかったなあと思っています。

### ■ 感慨深い、最初の舞台

杉並区では、区内小学校の音楽課外活動を「音楽教室」と位置づけ、桃二小は区内唯一の弦楽合奏で参加していました。その区内の音楽教室参加校の発表会が、毎年3月に開催されます。2年目の平成16年度はセッション杉並で開催されました。これがはじめての発表会の写真で、強く印象に残っています。



最初の舞台の写真（平成 16 年 3 月 5 日 セッション杉並）

習っていてすごく上手な子と、中堅どころの子と、初心者の子と、みんなが弾けるように5パートくらいまで編曲して、ヘンデルのラルゴや、レハールの喜歌劇「ききませわが心」（メリー・ウィドウより）を演奏しました。あのときは感動しましたね。

その他にも、すずらん祭、荻窪地域区民センター祭りなど、地域のイベントにも出ました。お客さんがいっぱい来て下さいましたよ。

### ■ 3年目（平成 17 年度）：自主コンサート開催

そして次に、自分たちのコンサートをやりたいと、3年目にスプリングコンサートを企画しました。3月に、子供たちが1年間の成果を、体育館で発表します。そこに地域のアマチュア、時にはプロの演奏も入るコンサートを、自主企画したのです。子ども達が描いた

ポスターを地域に貼りに行き、地域の皆さんにも知っていただくよう広報活動もして、体育館が満席になるほど、たくさんの方に来ていただきました。準備する保護者の皆さんは大変だったと思いますが、卒業生も見に来て、弦楽合奏の伴奏で、1、2曲一緒に歌うのが恒例となりました。校歌も、杉並弦楽合奏団の作曲家の横山淳先生に編曲いただいて、弦楽合奏の伴奏で歌いました。スプリングコンサートも、弦楽合奏伴奏での校歌も、今もずっと、引き継がれています。



■ 後任の先生方、そして地に支えられて

平成20年3月に退職しましたが、後任には音大のバイオリン科を出た先生が来てくださいました。その後、現在の先生で3人目です。課外活動ですからやらなくてもよい活動でもあり、本当に大変なのに、私がこれまでお話したような想いで設立した弦楽クラブを引き継いで下さり、深く感謝しています。

また去年の大人塾荻窪コースの冊子に桃二小のクラブのことも紹介くださっていますが、最近、音楽専科の教員だけでなく、地域のプロ、地域の方（保護者OB）、現役の保護者で、弦楽器を指導できる方が参加下さり、練習を見てくださっています。大人が入ることで、教室を分け、パートごと、楽器ごとに練習することもできるようになりました。地域で支えて下さるというのがすごいなあ、ありがたいなあと思っています。

■ 課題もあります

もちろん、課題もあります。小学校のクラブが、今、これだけ活動しているよ、というのが、校内でも校外でもあまり知れ渡ってないのが残念です。弦楽合奏を小学校でやっているよというのがわかれば、古くなった楽器をあげようとか、お手伝いに行きますよ、という人も自然に出てくるかと思うんですよね。これからの課題ですね。

桃二は受験校ですから、せっかく5年生までやって、

あともう少しやればうまくなると思っても、やめちゃう子もたくさんいます。けれど長い目でみれば、その子が中学高校大学、また大人になったときに思い出して再び弦楽器をやってくれば、クラブで指導した甲斐がありますよね。そう考えています。

■ 子育てと教員生活とバイオリン

ところで、私も若い頃はですね、子育てと学校で、とてもバイオリンを弾く時間はなかったです。学校では口封じしていただくくらいで、当時の教員仲間は私がバイオリンを弾いていることをほとんど知らないんですよ。息子もバイオリンを習い、子育て中は、レッスンにもついていきました。今はプロのピオラ奏者になりましたけれど、小中学生の時は、男の子ということもあり、普通の親子の会話が難しい時期もありました。大人になってようやくそれは解消された気がします。

1日は24時間しかないので、時間を何に使うかは、価値観によります。何を自分で大切にするか。私は音楽を大切にしたい、というのが心の中であって、だから子供が高校3年生になったときに、このままにしておいたらバイオリンは弾けなくなっちゃうと、中野区民オーケストラに入りました。結婚前には都民交響楽団にも入っておりました。それから、主人が創設時から関わっている杉並弦楽合奏団という地域の弦楽合奏団にも入りました。主人はアマチュアのピオラ奏者です。現在は、杉並弦楽合奏団と、千葉のマスターズオーケストラで弾いています。弾き続けることで、今まで知らなかったことを知る機会にもなり、すごく勉強になります。

■ 桃二小90周年記念式典にて

2019年12月7日、桃二小の90周年祝賀会が開催されました。学校の方には地域の方が推薦して下さって、演奏の機会をいただきました。



在校生は5、6年生、そして中・高・大学生、社会人も含めて、卒業生が参加しました。京都や長野からも駆けつけてくれて、本当に感激しました。大学でオーケストラを猛烈にやって、1年留年してるよという子もいましたし、音大でプロを目指す子もいるし、もう音大を卒業して活躍している子もいました。プロになるというのは限られた子だけども、それぞれの立場で、音楽にかかわると、生きる張り合いに通じます。

地域のプロ、保護者や保護者OBの弦楽経験者も加わり、思い出深い演奏会となりました

(その時の演奏は右のQRコードからお聴きいただけます)



### ■ やりたいと思うことはかなう

やりたいと思ったことは、努力すればかなうと思うので、ぜひ、皆さんもチャレンジしてください。何より「やりたいと思う」ことが大事ですよ。

そして、それを達成するためには、急激なことはしない。少しずつ自分が前進するやり方で進んでいくことが大切だと思います。

退職してから、バイオリンのレッスンに行きはじめ、勧めてくれる人がいて、先生にも相談して、ウィーンの音楽セミナーにも参加しました。一生の中でのよい経験になりました。自分なりにできることをその都度、隙間を見つけてね、今ならできるって。

今も、合唱も、頼まれれば杉並区内の小学校で指導を続けています。桃二小のクラブはコロナで2年目の休止。来年、また地域の皆さんのお力も借りてやっていきたいですね。

そして、今もオーケストラと弦楽合奏団に入っていますけれど、体が動く限りずっと弾いていきたいと思っています。



受講生の皆さんと、星先生を囲んで

(2021. 10. 16. 杉並区立荻窪地域区民センターにて)

### <あとがき>

星先生にお話をうかがって、桃井第二小学校の早朝合唱・合奏クラブ(現・音楽クラブ)が、星先生、桃二小の先生方、地域のプロ、保護者の皆さんとの手作りできりあげられたクラブであることを、改めて知りました。コロナ禍で2020年度からの活動がストップしてしまっていますが、再開を心から願っています。また、働く女性、母親としての星先生、またバイオリンを弾き続けることについても、今回様々なお話をおうかがいすることができ、「やりたいと思うことは努力すればかなう」という最後のメッセージが心に響きました。

クラブが再開されましたら、ぜひ、3月の「スプリングコンサート」に、地域の皆さまにもお運びいただけたらと思います!

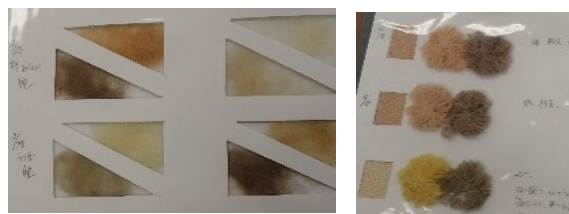


## 私が草木染をする理由

ワクワク・ビト（話し手）：

よこやま  
横山ひろこさん  
けやき工房代表

聞き手：原田佐和子



杉並の100色・他のサンプル

きっかけの木の前で

### <まえがき>

植物を通じて知り合った横山さんに、草木染や地域への思いをうかがいました。

### ■ きっかけ

二十歳のころ、庭で木を見上げながら、「こういうものから色がもらえるかもしれない・・・」っていう思いが頭の中に降ってきました。その時は、草木染なんて言葉も知らなくて、たぶん煮出せば色が出るかなって。

その後、今から30年前、北海道に住むことになりました。東京とは草も木も、全然違って、「あ～！今だ！！」って思ったんです。色々な草を手当たり次第に煮て、染めました。大きな鍋もその時買いました。染めてから、この草は何？と名前を覚えていきました。一度染めたものは忘れないんです。

### ■ けやき工房

東京に帰ってきて、草木染をする工房を作りました。それが今居るところ、「けやき工房」です。自然が少ないなんて言われる東京でも、色々あるじゃない！と気がつきました。毛糸をまとめて買って、同じ素材で色をくらべるようになりました。そのひとつひとつが違う色なんです。染まりそうだなと思ったら、ちょっとおとなしい色だったり、こんな枯れたような枝から色がとれるの？って思ったら、ほんとに素敵な色が出たり。嫌な色は出ませんでした、染まらないものもないです。なぜなら、植物は生きているから！って思ったんです。でも、庭の枝木だけでは限りがあって。専門店に行けばアカネとか、そういう物を染料としてチップで売っています。それも草木染ですが、私は生のもので染めたかったので、どうしようかな～って思っていたら、杉並区報にみどりのボランティアの募集が載っていて。「これだ～！！」って思って、飛びつきました。それが20年前です。

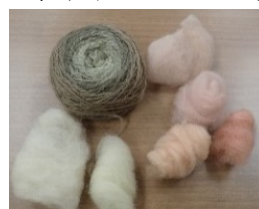
### ■ 小枝のフレディ 講座や公園などの活動へ

けやき工房で友だちなどと一緒に草木染を始めました。剪定した枝とか、除草した草とか、そういう捨てられてしまうものに、命を吹きかけましょうっていう気持ちから、そのグループに「小枝のフレディ」っ

ていう名前をつけました。そのうち、杉並区の環境ネットワークの人が声をかけてくれて、『杉並の息づく緑で草木染』という年1回の講座がスタートしました。その他にも、なのはな生活園では、そこで剪定した枝を使って草木染のボランティアをしています。柏の宮公園のみちくさひろば、井草の森公園の落ち葉感謝祭、梅里と西田のゆうゆう館、サイエンスくらぶなどにも伺っています。

草木染って、最初はワ～って飛びついてくれるんですが、12回やったからって12色、クレヨンの箱みたいには染まらないんですよ。だから、「いつも同じ色ですね」なんてよく言われて。そうじゃなくて、何もない捨てるようなものから色をいただけるっていうことを伝えたいんだけど、分かってもらえないことも多い。落ち葉でも染まります。イチョウの黄色とかカエデの赤とか、目に見える色じゃなくて、その木がかかえているものがハッと出る。それがその時々で違うので、私はちょっと、とりつかれているんです。

### ■ 草木染をとおして伝えたいこと



染めた原毛（羊の毛、周りの塊）と紡いだ毛糸（左上）  
（台所で染めるので、媒染剤はアルミと鉄だけ）

こういう風に、羊の毛を染めて、紡いで編んでみたんですが、それが目的ではないんです。わかってもらえるかどうかわかりませんが、只々木と触れ合いたい。そして、もしかなえば、それを杉並の人とわかちあいたいのです。どうか、私たちが木とともに生きていることに気づいてほしいのです。

これから先ずっと私は、この思いをかわらず胸にもち、草木染めをしていくつもりです。

（2021.10.16. 荻窪地域区民センターにて）

### <あとがき>

家の建て替えで、庭木を何本も切ることになり、それがとてもつらかった時、横山さんが、その枝葉から毛糸に色を取り出して、プレゼントしてくださいました。私の宝物です。



## 荻窪家族レジデンスとともに

るりかわまさこ  
ワクワク・ビト（話し手）：瑠璃川正子 さん

荻窪家族レジデンス代表

聞き手：檜枝光太郎

### ■ そもそも

私は団塊の世代で専業主婦として、自分の両親と夫の両親の4人を関わりの大小はありますが看取りました。その経験から、老人ホームや病院にお世話になりたくないと思いますが、次の世代は子育てや仕事が忙しく、親の介護など期待は出来ないとも思います。

それでご近所やちょっと離れたところの人と親しくして、自分のことを気にかけてくれる人が居るといいな、でも高齢になり足腰が弱くなると外に出られなくなるな、それなら自分の住むところに人が来てくれるようにすればよいと思い受継いだ敷地を活用して、多世代の人が来てくれてお互いに支え合うような場所を作りたいと思うようになりました。

### ■ 思いを実現する

私の思いをいろいろな人に話しました。すると、私の思いは自分だけでなく多くの方も持っていてこれが多くの方を巻き込んだ最大の要因と思います。

すぎなみ地域大学で出会った高齢学研究者の多岐にわたる応援があり立派な方々を紹介頂いた中のおひとり建築家は街づくりにも大変関心があり、私の観点も設計に加味してくれました。このように色々な関わりの中で、まるで魔法のじゅうたんに乗っているように私の知らない景色を観させて頂きました。

資金は補助金を考えましたが、期日や規制の問題があり、結局、一番大変な銀行からの融資を受けました。その代わりに規制に縛られない自由を得ました。また依頼した施工会社の問題で工事が一時中断したりして、苦労させられましたが、2015年2月に竣工しました。コンセプトが時代にマッチしていたので、2016年にはグッドデザイン賞を受賞しました。

### ■ いま

2階は、プライベートはしっかり確保しつつ、たまにはラウンジで他の入居者と食事をしたり、日常の中で多様な人が交わり、自然と関係が生まれていくシェア型賃貸住宅となっています。入居希望者には、このコンセプトをよく理解して頂く事が大切でまた私たちも相手の方をよく理解してから入居して頂いています。

1階の「百人力サロン」は、与えられたものではなく一緒に作り上げる事が大事とし気にいって頂ければ会員になり自分らしさを実現させる居場所となります。ここでは、いろいろなイベントも行っています。今年初めて、ご近所メンバーさんと民生委員さんの協力を得て「おいでよ！ご近所ハロウィン」を行います。

### ■ これからやりたいこと

私はペーパー薬剤師ですが、生まれ変わったら建築家になりたく、家だけでなくインテリアなどいろいろなデザインをしてみたいです。クリエイティブな仕事は楽しそうですね。

これからやりたいことは大きなことよりも、目の前のことを一步一步進めていきたいと思っています。その中から思いがけない大きなことが出てくるかもしれません。

### ■ 荻窪家族レジデンスをとおして伝えたいこと

皆さんに「こんな大変なことが良くできたわね」と言われますが、自分にとって余分でなく必要だと思ったからであり今では参加する方も喜んでくださっていますが、一番得しているのは私です。皆さんも一歩踏み出して住んでいるところの一部をオープンスペースにしてみませんか。最初はお庭でやってみて、大丈夫と思ったら室内でもするなども良いかもしれません。

そうすれば きっと思いもかけない効果を体験する事と思います。



受講生と一緒に。左から二人目が瑠璃川さん。

(2021. 10. 16. 荻窪家族レジデンスにて)



## 緑の多い荻窪 屋敷林を守りたい

たけいしげひろ  
ワクワク・ビト（話し手）：武井成浩 さん  
やしきりん  
荻窪屋敷林所有者  
聞き手：渡邊麗

### <まえがき>

荻窪1丁目にある江戸時代から続く農地とお屋敷の18代当主です。屋敷林を後世に残し、繋げていきたいと考えています。

### ■ 18代当主

歴史としては、<sup>ちゅうどうじ</sup>中道寺（杉並区荻窪2丁目）で残っている記録で僕が18代です。一番最初は1600年代からという記録で400年以上続いているようです。ほんとうはもっと前からかもしれない。代々農家をしていて、江戸時代は<sup>なぬしかしら</sup>名主頭だったという話は伝え聞いています。

僕は長男です。計算すると1代あたり20年とかそういう感じで短いですね。当時は兄弟とかで継いでいたのではないかな？と推測します。先代の父は8年前に亡くなりました。

400年の間には、経済的に苦勞した時もあったようです。祖父の時は、土地を貸せる時代になってきていたので借地として貸したり、土地を売って生計をたてていた時代です。

父は三男で継いでいる。長男は戦争でシベリアに抑留され、戦後父が家を引き継いだ後に帰ってきました。次男は新聞社に勤めていてそのまま

---

注：屋敷林(やしきりん)とは宅地のまわりに植えられた樹林のこと。冬の季節風や火災などから家屋を守る効果がある。関東地方のシラカシ、沖縄のフクギなどが有名。(出典：精選版 日本国語大辞典)

サラリーマン。昭和3年生まれ。父は、本当は農業をやりたいと聞かされたことがあります。

僕はいま53歳です。昭和43年生まれ。兼業で継いでいます。「農業と税理士の兼業」です。

生産したものは、農協とかにたまに持って行ったりします。兼業のため安定して良い商品が出せないです。



### ■ この庭を維持すること

雑草、虫などもあり、維持がたいへん。畑は僕がやっておりますが、ボランティアの方たちに手伝っていただいています。

父の代から体験農園(いまは農業公園になっています)をやっていた関係で、その当時の方にボランティアにきていただいています。自分で作ったものは持って帰っていただいています。損得抜きで、土いじりをしたい方に触っていただいています。



す。地べたからはえるものはプランターで作るものと全然ちがうんです。結局「畑の土は特殊な土」です、「良い土」です。

### ■ 保護樹林、貴重木きちょうぼくのある屋敷林を残したい

屋敷林は樹齢 300 年くらいです。ケヤキで 6 本あります。保護樹林は 10 本、貴重木は 4 本指定されています。木斛もっこくと、モチノキです。貴重木とはある程度大きさがある木や珍しい木が対象です。保護樹林は区内全体で 60 本くらいあります。

生垣は全長 320m でひいらぎです。こどものころ、1 月 1 日の広報「なんでも一番」という企画で「杉並区で一番長い生垣」で紹介されていたのを覚えています。



「ひいらぎ」はお守りする、という意味がある。棘がでていて「邪鬼除け」の意味があります。節句のときにいわしをさす「ひいらぎいわし」は鬼の目をこれできつきさす。いわしの匂が嫌いだとか。節分は代々真面目にやっています。

ひいらぎは父がコツコツ植えて生垣にした、という話です。父は畑ひとすじでした。凝り性でより良い野菜をつくるため改良を重ねながら畑をやっていました。

そんな父を見て僕は、専門は無理だと思いました。父は杉並区の中でも農業に一生懸命であり有

名で、「なにかあったら畑のことは武井さんに聞け」と言われるくらいだった。杉並区の公的な仕事も携わり、技術もあるという。

平成 15 年天皇陛下に粟を献上するという大役を仰せつかり、体験農園とここの 2 か所で作りました。種を蒔いたときは警官がすごかった。白装束を着て蒔いたりしました。天皇陛下がいらっしゃるわけではないけれども、皇室関係のことをするというだけで警官がすごかったです。出来上がって父が献納にいなめさいしました。新嘗祭、伊勢など、全国に粟を献納してきました。

父は、とにかく朝早くから夜まっくらになるまでやって、土日ありません。それを見ていると「これは僕は気軽にはできない」と思い、さらに大学生のときはバブルの時代、都内に畑はけしからんという風潮でもありました。考え抜き、大学は法学部法律学科に進み、税法を学びました。

税理士になったから父は喜んだかということそんなことはなかったみたい。J:COM の取材で杉並農業などをとりあげてくれた時「跡継ぎはどうですか？」とインタビューされて「息子はぜんぜん興味がないんだけど、いつかやってくれるといいな、と思っているんだ」と答えていたのを見て「ほんとうは農業やってほしかったんだ」と思いました。

管理は、保護樹林、貴重木に対し 1 本当たり年間数千円の補助で、合計して年間数十万の補助金をいただけるが、あとは持ち出しです。練馬区や世田谷区では「農の風景育成地区」として農地を東京都が指定しています。杉並区もそれを目指しこの荻窪 1 丁目及び成田西地区が区の指定を受けました。

毎年 1 月に「焚き火」やっています。焚き火で焼いたさつまいもを寄って頂いた地域の方に差し上げています。2021 年は雨で中止でした。2022 年もやる予定ですが、コロナでどうなるかわからないです。2021 年の七夕は短冊を書いたりして夕涼み会をやりました。

行政は「農の風景育成地区」の関係で緑公園課

が入っています。また、秋から落ち葉を掃くのは大変ですが、みどり支援隊の方々がやってくさきり、とてもありがたいです。ボランティアさんが一生懸命してくださるので助かっています。



ボランティアの方は火曜日の午前中はきてくださいます。ありがたいです。みどり支援隊は不定期だけど、落ち葉掃きの11月～12月には毎週きてくれます。あとは植木屋さんにもきていただいています。ボランティアの方は我が家のようにきれいにしてくださっています。父のときからの方なので高齢化が進んでいます。以前は60歳ちょっとで退職した方が多かったのが、いま70代。前は7人いたけどいまは5人です。

父が体験農園をしていた時には、苗を用意したり、事務作業をやっていたので、野菜の作り方はそこで学びました。体験農園に来る方の中には、食育にはまった、という方がいたり、障害をお持ちの方が家にこもりがちになってしまうのでご家

族の方が太陽の下で土に触れて心の健康につなげたい、ということであらうしやったりします。外にでてよかった、という話を聞くと「やってよかった、社会に貢献できた」と思いました。またいつか体験農園ができればよいと思う。

ひとりで緑は守れない、地域の方の理解が必要です。なかには「はっぱがとんでくる」と言ってくる方もいます。

### ■ 僕の考える萩窪

名前のしげひろの「成」は成宗地区からきた名前です。僕の長男には「宗」をつけました、地域に誇りを持てるように。

杉並はいいところです。新婚時代2、3年くらいはここを離れましたが、こどもはここで育てたいと思っていました。こどものころの記憶は大事だと思っていて、緑を見て育っていると大地をまもっていかねばいけないと思ってくれるかなあと思いました。おかげさまでこどもはすくすく育つてます。

萩窪は「緑を大事に」と思ってくれるバランスの良い地域であってほしいです。緑もあって落ち着いていいよね、すみやすいよね、と思ってほしいです。子育て環境としては萩窪は良いと思います、緑は本当に多い。

歴史はなかなか簡単には作れないです、「うちを守る」というより、「みどりを守って地域の中で役にたてる存在」でいたいと思います。僕ひとりの代では作れない。

息子に託したいが、息子はまだまだ自覚していないですね。これは自分もそうだったのでこれからだんだんと。

(2021. 10. 16. 武井さんのお宅にて)

## 編集後記



今年のテーマは「聴き描き」と聞いた時、「???」と思いました。荻サポがお手本(?)として自分のワクワク・ビトのインタビューをすることになり、荻窪家族レジデンスの瑠璃川さんにお願ひしました。インタビューして取り纏めてみると、予想外に「おもしろいものができそうだ」と手ごたえを感じました。受講生のお手伝いで、荻窪八幡の小俣さん、けやきの見える家の樋口さんのインタビューに同席してお話を伺い、素晴らしいものができる確信に変わりました。その結晶がこの冊子です。荻窪に関心のある方々に広く読んでいただけるようにしたいと思っています。(檜枝 光太郎)



杉並区は人材の宝庫! 隠れたすごい人たちがたくさんいるはず、と常々感じていましたが、正直言ってこれほどとは!! とビックリです。インタビューに快く応じてくださったワクワク・ビトの皆様はもちろんのこと、そのワクワク・ビトを探し出し、インタビューをして、それをまとめた受講者の方々。それぞれ、すご〜い人材ぞろいでした。もちろん、荻サポメンバーも、頑張りました! 初めての事ばかりで大変でしたが、充実した楽しい時間でした。コロナ禍で、色々な制限がある中、苦勞して出来上がった冊子。是非、色々な方に読んでいただけたら嬉しいです。(原田 佐和子)



『新荻窪はっけん伝第2章』は荻窪のワクワク・ビトにインタビューして聴き描きをすることになりました。「荻サポが先行して見本を示しましょう」って聞いてないよう! というセリフは飲み込んで、初めての聴き描きに挑戦。以前から魅力を感じていた荻窪白山親和会の今村さんのお話を伺い、培ってこられた活力の基、魅力の源泉に触れることができたように思いました。今回参加された皆さんのレポートには、荻窪の魅力ある人々が大勢登場し、とても読み応えのあるものにまとまったと思います、この取り組みが、さらなる荻窪の魅力はっけんに繋がることを期待してやみません。(染谷 貞夫)



荻窪大人塾“第2章”の活動は、コロナのおかげ? で随分と悩ましく制限された中、一人一人のワクワク・ビトの方々への聴き描きを実行し一冊にまとめよう! という事に。しかし決まったものの私自身も試行錯誤の連続でした。模範解答も正解ありません。例えば、参考に来る先人達の荻窪ワクワク・ビト聴き描き集なんて無いんです。そう、まさにこの一冊が記念すべき『荻窪ワクワク・ビト聴き描き第一集』ですね。ワクワク・ビトお一方お一方の生き方、考え方に共感、感銘を覚えます。そして荻窪の底力と魅力を感じます。やっぱり荻窪ってあっぱれ! (渡邊 麗)



自分の事務所へ徒歩10分(帰りは2時間かかるときもある)の通勤に通る三つの商店街の中の一つ、日の出街のお店の聴き描きをして、もっと面白い商店街、もっと面白い地域にできるかな、の第一歩になりました。聴き描きしていただいた皆さんも、原稿を読んだ皆さんも、こんな面白い方が地域にいらっしやると知って、地域での活動への関心が大きくなったのではないかと、思います。ただ、そうしたお店が増えると、寄ってゆくところが多くなるのが、痛しかゆし。(加藤 俊也)

私たちのワクワク・ビト  
新・荻窪はっけん伝 第2章

2022年6月発行

発行 すぎなみ大人塾荻窪コース 2021

お問合せ先：杉並区立社会教育センター

電話：03-3317-6621